

感染症の安全保障の観点から、2026 年 10 月からのコロナワクチンは 青山クリニックでは国産の mRNA ワクチン「ダイチロナ」を採用します

いつも当院をご利用くださりありがとうございます。

コロナ禍では国内で速やかにワクチンが製造できず、当時の菅首相がアメリカと交渉しファイザー製のコミナティというワクチンを輸入した経緯がありました(ファイザーはアメリカ企業です)。

今後、新たなパンデミック(感染症などが世界規模で大流行する現象)に備え、日本政府は国内の製薬企業に国産のワクチン製造・研究を促しています。ただ、コロナワクチンに関しては医師や患者さんのファイザー製のコミナティへの依存度が高く、なかなか国産ワクチンが利用されておられません。これでは再び国内の製薬企業のワクチン製造は衰退し、万が一またパンデミックとなり緊急でワクチン生産が必要な際に、日本国民が予防できるだけのワクチン生産が可能かどうか分かりません。昨今の社会情勢から将来のアメリカとの関係も現在と同じとは言いきれず、これは感染症の安全保障上問題となります。

この度、国内の製薬企業である第一三共のコロナワクチン「ダイチロナ」が一人分ずつの製剤で発売されクリニックでも使用しやすくなったことから、微力ではありますが当院でもこのダイチロナを採用することにしました。ダイチロナはコミナティと同様の mRNA ワクチンで、効果や副反応も同等です。

なお、引き続きファイザー製のコミナティを希望される患者さんは大変申し訳ありませんが、他院での接種をお願いいたします。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。一方、当院は患者よし・職員よし・社会(地域)よしの医療の三方よしの理念のもと、皆さんと一緒に考え深化するクリニックを目指しています。本件に関してご意見がある方は是非とも院長またはスタッフまで教えてください。

2026年9月

青山クリニック 院長 青山友則